
15話 ゴミ箱へ直行

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

15話 ゴミ箱へ直行

【Nコード】

N2084K

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

ショートショートです。

「高級バッグであっても、スーパーのナイロン袋であっても、物を入れるという機能は共通しているはずなのに、人間はなぜボクたち紙袋と高級なバッグをこれほどまで差別するんだろう？」

隣の紙袋に話しかけると、そんなことも分からないのかとでも言いたげに、ため息をついた。

「他の人間に対しての威嚇だよ。こんなに高級な入れ物なんだから、入っている物はもつと高級な物なんだぞってな」

「なぜそれが威嚇なんだい？」

「考えてもみるよ、もしヘタに近寄って中身を壊したりすれば大変なことになるだろ？」

「ああ、そうか。でも高級っていうのはいったい何が基準なんだろうな」

「そこまでは分からないけど」

「試しにボクたち紙袋も高級なバッグになつてみないか？」

「どうやって？」

「そりゃあ……分からないけど、いろいろ考えて試してみるんだよ」
「試すって言っても……」

「いいから、やってみようよ。同じバッグに生まれておきながら、安価で利用価値が高いボクたちがザツに扱われるなんておかしいと思わないか？」

「そ、それもそうだな」

「おまえたちだけズルイぞ。オレたちだつて高級バッグになりたいんだ」

「そつだそつだ！」

他の紙袋たちも口々に騒ぎはじめ。

「じゃあみんなで考えようよ。どうすれば人間から見れば高級なのかって」

「そうだ、お届けもの持つていくのに、紙袋まとめてたたんておいであつたわね。

えっ？ 何コレ！ いったい誰のイタズラよ！

紙袋に赤マジックで『ぶらんど』なんて書いたのは！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2084k/>

15話 ゴミ箱へ直行

2010年12月10日21時27分発行